

中国における芸術課程標準について

麻 麗娟*・福田 隆眞

On the Curriculum of Art in China

Ma Li Juan* and FUKUDA Takamasa
(Received January 12, 2007)

キーワード：中国 教育課程 芸術 美術

はじめに

現在、中国では美術教育に関わる教育課程は、2001年6月に公布された美術課程標準と同時期に2001年に公布された芸術課程標準の二つが存在している。美術課程標準については既に報告をしてきた。^(注1) 新たに公布された芸術課程標準は、美術教育と音楽教育に加えて舞踊等の身体芸術表現をも含んだ新しい教科としての「芸術」の指針となるものである。こうした芸術の統合的内容の実施は既に台湾において「芸術と人文」という学習領域として実施されている。

本稿では、中国の新しく設置された芸術課程標準の内容について解説し、美術課程標準との相違について述べる。^(注2)

1 芸術課程標準の特徴と意義

芸術課程は義務教育の学生にとって必修科目となっている。また、学生の人間形成、人格の陶冶、知的発達などに意義を持っている。芸術課程標準では、芸術を総合的に扱い、音楽、美術、演劇、舞踊、映像、書道、篆刻の芸術様式と表現形式を通して、学生の生活、感情、文化的素養と科学的認識に対して直接的或いは間接的に影響を与えるものであるとしている。芸術課程は各分野の知識や能力に加えて、学生に多様な芸術的能力を発展させる。さらに学生の芸術的能力を育成するだけでなく、複数の分野または各分野を自由に活用し、総合的な創造力を伸ばし、全面的な人格の養成を促すものであり、その特徴と意義を次のように示している。

(1) 芸術課程標準の特徴

① 人文性

芸術課程は人文的課程である。従来の芸術の単一的な気晴らしや技芸などの考えを改め、芸術を人類の文化と人類の想像力と創造力の結晶であるとしている。人文性は極めて高い価値を持っている。芸術は様々な時代の文明を記録し、高度な人文的精神を凝集し、人類

*山口大学大学院東アジア研究科博士課程

の知恵を凝縮している。芸術課程は芸術の形式と豊かな内容と深い人文的な内包を通じ、学生の心を打ち、学生の日常生活の身近にあり、学生の情意や文化的な要求を表すものである。

② 総合性

芸術課程は総合性のある課程である。芸術科目の知識、技能、文化的背景、風格や流派などの内容を総合するだけでなく、音楽、美術、舞踊、メディアなど各芸術学科の総合及び芸術学科と他の科目の総合でもある。芸術課程は、目標、構造、内容の面で総合性を探究する新しい課程である。

③ 創造性

芸術課程に関わる各種の創意、デザイン、制作、表現、コミュニケーションなど、学生に創造的に問題を解決すると共に芸術的潜在力を発揮する機会を提供する。学生に自己表現や想像力を発揮するチャンスを与える。芸術課程は創造性のある課程である。

④ 愉悦性

芸術課程は個人やグループの創造、演技、鑑賞、コミュニケーション、評価などの活動を通じ、学生に豊富な感性的資料や情報を提供し、学生に制限を加えることなく、自由に各種の芸術活動に参加させ、芸術学習の楽しさを体験させることによって、身心の調和を発展させる。

⑤ 古典性

芸術課程は古今東西のあらゆる古典的な文化や芸術遺産を自然に授業活動に融合し、学生の成長に文化的な効果をもたらしている。古典的芸術に触れることは学生の健全性や高度な芸術素養を養うことができる。また、芸術は人類発展の歴史、様々な国家や民族の文化の中での価値を学生に理解させることができる。また、これらの探究や学習は学生の学習力を高め、学生の興味を呼び起こさせる。

(2) 芸術課程標準の意義

① 美の創造と鑑賞の意義

芸術課程は学生が芸術学習の中で美の創造と美の鑑賞をする実践を重視する。また、音楽、美術、演劇、舞踊、映像などの芸術学科の総合と関連を通じ、学生の芸術経験を徐々に豊かにし、美を感じ、創造し、鑑賞する能力を修得する。そして、健康的な審美眼を高める。

② 情意的意義

芸術課程は学生に多角的、多面的かつあらゆる手法による情意体験をさせることによって、学生が自由に好きな方式で自己表現やコミュニケーションをし、感情を豊かにし、人格の発達や心の浄化ができる。

③ 知的価値

芸術課程は各種の芸術の総合と関連を通じ、学生の視覚、聴覚、行動の調和、言語、自己認識などの能力と環境に適応する能力などを育てる。芸術に関わる連想、推理、分析、総合などの活動の中で、学生の形象による思考と科学による思考を調和して発展できる。また、知的発達と新しいものを作り出す能力も高めることができる。

④ 文化的価値

芸術課程は学生に豊富な芸術情報に触れるチャンスを与える。自国をして世界各地の芸

術の歴史や文化を認識させ、理解させることにより、自国の特色ある民族文化を愛する心を育てる。そして、そのことは多元文化に対する尊敬が生まれ、文化の伝承や発展へと繋がる。

⑤ 実用的価値

学生が芸術課程で得た芸術能力と体験は学生の生涯に利益をもたらす。学生の生活を豊かにし、仕事や勉学においても効率性や創造性が高くなる。

2 芸術課程標準の基本理念

次に芸術課程標準の基本理念について次の4つの項目を示している。

(1) 芸術能力を育成するための環境作り

植物を育てるためには太陽、空気、水分、土など特定の生態環境が必要であると同じように、人の芸術能力を発展するためには適切な条件や環境が必要である。学生に効率的に芸術能力を修得させるため、本課程は以下の4つの面から学生に芸術能力を育成するための環境作りを述べている。

① 各芸術領域を融合し、総合的な芸術能力を形成する

人間は大古時代、また幼少期にあっては、話す、歌う、踊る、描くなどの芸術活動を常に自然に融合している。現代芸術の中で、総合芸術形式は人類の主な芸術表現形式である。このように多種の芸術形式の総合によって、芸術学習は容易になり、更に活発に活用できる。そのため、芸術能力を修得することはもっと自然に、円滑にできるのである。芸術教学は芸術能力を形成する規律に従うべきである。また、音楽、美術、演劇、映像など各学科の相互連携や補充できるような芸術学習の環境を学生に提供すべきである。

② 個人の育成環境と芸術能力の向上

学生が成長する環境は日常生活、情意体験、文化的背景、科学的認識などの面が含まれる。芸術学習は学生の興味、要求、情意表現、人間関係など学生の個人的な成長環境と関連してこそ、学習が豊富になり、充実させることができる。

③ 芸術史からの要素の抽出

芸術課程は人類の文化的歴史の中で発展の課程を経てきており、学生に各時期の芸術に触れさせることができる。芸術は生活にどのような影響を与え、どのような情意が表現され、当時の文化や科学の発展からどのような影響を受けてきたかについて学生に理解させ、自然に芸術学習と人類の生活、情意、文化や科学の発展などと関連し、芸術に対する理解を深めることができる。

④ 芸術活動における芸術能力の形成

芸術能力の形成は完備された芸術活動が必要である。完備された芸術活動とは芸術感知、芸術創作、芸術反省を含んでいる。芸術教学は学生に自分の芸術感知や芸術創作、芸術反省と関連させる。芸術感知は芸術創作の素材を提供する。芸術創作は芸術感知を豊かにする。一方、芸術反省は芸術感知、芸術創作を評価し、感知と創作の進む方向を提供する。

(2) 人文的テーマに関わる芸術学習

芸術課程は芸術学習の機械的な模倣や訓練を改め、単純に専門的な技術を把握することだけでなく、人文的テーマに関わる芸術学習の中で、気軽に芸術の基本知識や技能を学習することを目標としている。それによって、芸術の歴史や文化を理解し、芸術体験や能

力を形成する。また、尊重、感動、友好、協力、分かち合いなどの人文的素養を修得し、人格的発達を促す。

(3) 芸術学習の個性化の強調

芸術学習の個性化は“全体の学生に対し、学生の資質向上を基本にする”という基本的な教育理念を芸術課程の中で具体的に表していることである。本課程は各学生に平等な芸術教育機会を付与し、各学生に人類の優れた文化遺産を学習する権利を与える。各学生に生活に色をつける芸術能力を持たせるようにする。芸術教育は各学生の個性、生活背景に関心を持ち、彼等の主体的意識を引き出す。また、彼等に体験をさせ、探索する。積極的に実践する環境条件をつくり、個性的な芸術活動を励ます。それによって、自己の独自性や価値観が認識できるようになり、個性的な審美眼を形成する。

(4) 芸術活動における遊びの展開

芸術と遊びの間には内在的関連があり、想像と自由創造をすることは芸術と遊びの共同的本性である。芸術課程は遊び傾向の芸術活動を主張している。組織的な遊び或いは無作為的な遊びを通じて授業への興味を促し、学生の芸術学習に対する感心を湧かせる。そして、学生は遊びを通じて芸術を体験することができる。遊びを伴う芸術活動は学生がリラックスすることができるだけでなく、人の素朴な、素直な本性を自然に現わすこともできる。それと同時に、感化を受けて知らず知らずのうちに朗らかな性格を身につけ、積極的に生活や勉学に力をいれ、生活がもっと充実し、活発になる。

3 芸術課程標準の課程目標

芸術課程標準はその目標を総目標と部分目標に分けて、次のように示している。

(1) 総目標

各段階の学習を通して、芸術の基本的な知識や技能を修得し、芸術を感受し、鑑賞し、表現と創作、検討と評価、交流と協力などの芸術能力を伸ばす。また、生活の楽しさを高め、尊重、感動、友愛と善意、分かち合いなどの資質を養い、芸術能力と人文的素養を調和させ、理想的な人格を目指すことにある。

(2) 部分目標

① 芸術と生活

- ◇ 自然と生活に対する観察の中で、芸術の要素や原理を認識する。
- ◇ 芸術活動の中で生活に対する認識を深め、生活体験を広め、生活の楽しさを体験することを学ぶ。
- ◇ 生活経験と芸術経験の相互作用や相互転換の中で、芸術の方式で生活を表現し、美化することの能力を涵養する。

② 芸術と情意

- ◇ 基本的な芸術技能を応用して創造的に自分の情意や思想を表現し、交流する。
- ◇ 様々な芸術作品と芸術表現から溢れた情意や思想を感じ、理解し、人類情意に対する体験を得る。
- ◇ 人類の情意は如何に芸術の創造と表現を豊かにすることかを体験し、理解し、審美眼を高めることによって、身心の調和や豊かな情感を得る。

③ 芸術と文化

- ◇ 中国の民族芸術の風格や文化と歴史的な背景を探索し、比較する。それらの独特な表現方式を学び、各民族芸術の価値を大切にする。
- ◇ 世界の様々な地域の芸術を認識し、その民族の芸術の風格や文化と歴史的な背景を理解し、多元文化を尊重する。
- ◇ 様々な地域や時代の芸術的な表象から表された文化的意味を認識し、理解する。

④ 芸術と科学

- ◇ 科学的な発見と科学の進歩は芸術の発展への役割を果たす。
- ◇ 芸術想像、審美的要求は科学技術の発展や商品のデザインに対し影響を及ぼす。
- ◇ 芸術的な方法と科学的な方法を結びつけ、自然、環境、生命科学などに対して芸術創造と表現を行うことによって、科学的な思考と芸術的な思考との連携を促す。

4 芸術課程標準の内容標準

ここでは芸術課程標準の内容を総体と各分野と段階で以下のように示している。

(1) 内容標準の総体的構造

- ① 本内容標準は“学段内容標準”（活動提案を含め）と“授業例”の2部分に分けている。
- ② “学段内容標準”は学生の心理的、生理的な発展特徴に基づき、1～2学年、3～6学年、7～9学年の3つの段階にわけ、芸術と生活、芸術と情意、芸術と文化、芸術と科学の4つの面から学段内容標準を確立した。
- ③ “活動提案”は各学段の内容標準を実現するための授業活動提案を提示している。これらの提案は弾力性や開放性があり、教師は自由に選択して利用し、現地の実施状況に応じての編集もできるのである。
- ④ “授業例”は教師の考えを啓発するため、また教師がもっと正確に、迅速に標準の内容を把握させるためのものである。現地の事情に適応した措置をとった創造性がある授業例を工夫し、個性、創意があるモデル授業を探究する。本標準はこれらの授業例を選ぶ角度や方式が異なり、ある例は授業に関する考えの筋道だけ提供し、経済的に発達している地域の教師に適応する。ある例は授業に関する考えや活動提案を提供するだけではなく、具体的な授業例も提供する。これは農村や内陸部の教師達に適応する。ある例は単元の授業計画を提供し、教師に授業の計画に全体的なイメージを持たせる。

(2) 段階的内容標準

① 芸術と生活

生活は芸術の源泉である。学生は芸術と日常生活との関連を通し、自分の芸術体験を豊かにし、芸術を感知する能力を高める。そして、芸術の目で生活を観察することが出来る。また、芸術の方式で生活を表現し、美化し、生活の質を高める。

第一学段

内容標準

1-1-1

自然環境と社会生活情景に関心を持ち、その中の芸術要素を認識する。

1-1-2

身の回りの芸術を見つけ、社会生活情景と自然環境を判別する。

1-1-3

自分の生活経験と芸術経験を関連し、芸術の方式で身の回りの生活環境を美化する。

活動の提案

- ◇ 自然環境、社会生活の中の芸術要素を聞き、観察し、判別する。(例えば、点、線、色彩、リズム、ピッチ、音色など)。そして、簡単な芸術要素で自分の思いや感じを表現する。
- ◇ 学生が論議する：私達はどこで音楽が聞かれるのか。どこで絵画、彫刻、演技や舞踊が見られるか。芸術はなぜここで現われるか。初めてコンサートに行く或いは美術館に行った後、生活や自然に対する新しい気持ちを説明してみる。
- ◇ 自分がある生活や自然現象に対する体験と芸術家がそれらに対する表現を関連付け(例えば、自分が天気に対する体験と天気を描画する童謡を関連付ける。)自分が好きな芸術方式で自分の体験を表現してみる。

第二学段

内容標準

2-1-1

自然環境と社会生活の中の芸術要素を見つけ、感知できる。

2-1-2

芸術によって社会生活や自然情景に対する表現を体験し、生活の面白さを体験する。

2-1-3

生活と芸術との関連の中で、芸術の方式で生活を美化及び表現する能力を修得する。

活動の提案

- ◇ 自分が見た自然情景や生活した体験を思い出し、例えば、聞いた機器の音、見た各種の建物と木の葉の形など、その中から芸術の要素を見つける。
- ◇ 郷土芸術を鑑賞する。例えば、切り紙、泥人形、民謡、童謡、伝統音楽などを鑑賞し、その中から再現した生活情景や自然環境を判別し、それらに対する新しい見方や考えを表現する。
- ◇ 「采茶舞踊」と「孔雀舞踊」など生活や自然と緊密に関連がある作品を鑑賞し、芸術の再現と真実の生活の異なるところを論議し、自分が生活や芸術に対する理解を芸術成長記録帳に記録し、自分が得意な芸術方式で表現する。

第三学段

内容標準

3-1-1

自然環境や社会生活情景の中の芸術要素や原理を認識する。

3-1-2

芸術の様々な生活や自然情景に対する表現を認識し、生活に対する理解を深める。

3-1-3

生活と芸術との関連、比較の中で、芸術と生活の体験を豊かにし、芸術の方式で生活を表現し、自然を美化する能力を高める。

活動の提案

- ◇ 大自然の風景、自然の物音、各種の人造物と環境の中の対称、均衡、重複、変化などの組織原理を聞く、見る、鑑賞し、それらが異なる芸術の中の表現を判別し、自分の芸術創作に用いる。
- ◇ 結婚、宴会、試合、収穫などの生活情景の芸術作品を聞き、見る。そして、探究し、論議する。これらの芸術作品に関する生活情景と現実との関連や区別を論議し、芸術や生活体験を深める。
- ◇ グループを作って、自分が注目する生活内容や自然現象を加工し、歌、舞踊、劇、画などを編集し、出演する。(あるいは把握した線、色彩、音、楽器、動きなどで表現する。)

② 芸術と情意

芸術は人類の情意と精神的な生活を創造的に表現する。どのような芸術方式でも人類特有の情意と思想が含まれている。学生は芸術と自分の生活との関連や作用を通し、芸術の方式で情意を表現し、交流する。そして、創造力、表現力、コミュニケーション能力などを修得し、健全な人格、情操の陶冶も達成する。

第一学段

1-2-1

自分の情意や情緒を理解し、様々な芸術方式で交流や表現を試みる。

1-2-2

初歩的にある簡単な芸術作品や芸術表現から表わされた情意や情緒を判別し、反応を示す。

1-2-3

芸術作品と芸術表現から表わされた情意と個人の情意と関連させ、自己の情意に対する理解を深める。

活動提案

- ◇ 学生が体験した各種の強烈的な情意を啓発する。
- ◇ 母性愛、友情、歓楽などの日常でよくある情意の作品を鑑賞し、言葉、体、音などで様々な情意を表現する。
- ◇ 母性愛、友情、歓楽などの日常でよくある情意の作品を鑑賞する際、自分が体験した同じ情意を関連して論議する。

第二学段

2-2-1

芸術活動を通して自分や他人の情意や情緒を体験し、芸術の方式で表現や交流を学ぶ。

2-2-2

様々な芸術作品が表した情意を判別することができ、内的な体験を各種の芸術方式で表現してみる。

2-2-3

芸術作品が表した情意と個人情意を関連して比較する。自分の情意をきちんと整理する。

活動の提案

- ◇ 音楽、絵画、演劇、舞踊などの作品を聞く、見る。自分が感じた情意を得意な芸術方式で表現し、クラスメートと分かち合う。
- ◇ 自分が触れた詩文、散文、絵画、音楽、舞踊、演劇などの作品の中で、友情、悲しさ、歓楽などの典型的な情意を体験し、自分が好きな芸術方式で表現する。そして、自分が体験したことを芸術成長帳に記録する。
- ◇ クラスメート全員がよく知っている情意（例えば、悲しさ）を表現する様々な芸術方式をグループで見つける。各グループの代表は自分が体験した情意と選んだ芸術方式について話す。この情意に対する体験を芸術成長帳に記録する。

第三学段

内容標準

3-2-1

自分と他人に関する思想や情意を体験し、芸術の方式で創造的に表現する。

3-2-2

様々な芸術作品の人類の情意に対する表現を探究し、比較し、適切な芸術方式と芸術言語で自分の体験や感覚を表現する。

3-2-3

芸術の情意と個人の情意とを関連させ、比較する。それによって、審美眼を高め、身心の調和や愉悦を達成する。

活動の提案

- ◇ 自分が体験した強烈な情意（例えば母に対する愛、国旗が揚がる時の崇高感など）と音楽、美術、文学作品で表した同じ情意と関連し、自分がこれらの情意に対する体験を芸術方式で表現する。
- ◇ 同じ情意に対して東洋芸術と西洋芸術、音楽芸術と絵画芸術、同じ国家の異なる時期の異なる芸術表現方式を体験し、比較する。その結果や考えを芸術成長帳に記録する。
- ◇ 情意テーマを確定し、グループの方式でこれらの情意を短文で創造的に表現する（学生は自分で背景を描いて舞台を設置し、簡単な演劇用の服装を作る）。活動が終わった後、作品に関する感想を論議し、自分の情意変化を芸術成長帳に記録する。

③ 芸術と文化

芸術は各種の文化に関する表象の記録である。人類の文化や思想の発生と発展を記録し、再現している。芸術と文化の連携を通して、多元文化や人類文化に対する理解が増進でき、文化に対する認識や多元文化に対する意識を強める。

内容標準

第一学段

1-3-1

積極的に地域や故郷の芸術活動に参加し、公共施設の芸術を鑑賞する。

1-3-2

世界や様々な民族と地域の芸術に興味をもち、初歩的に異なる文化の芸術表現方式を体験する。

1-3-3

よく見られる芸術符号を収集し、初歩的にその象徴する意味を理解する。

活動の提案

- ◇ 地域、故郷の祝日や行事などのイベントに参加し、それに関する民族や民間音楽、歌、舞踊、伝統演劇、切り紙、装飾品を知り、その中の一つに対して模倣してみる。
- ◇ わかりやすい外国の芸術作品を聞き、見る。ある国や地域の音楽作品を鑑賞する時、その現地の風景写真、代表的な舞踊作品、美術作品を用意し、学生に様々な民族文化を理解させる。
- ◇ 家族や知人、先生から資料をもらい、提灯の図案、龍の図案、切り紙細工などの象徴的な意味を理解し、自分が知っている内容を皆に教える。

第二学段

2-3-1

中国の様々な民族の芸術表現方式を学び、その中に溢れた文化情報を理解する。

2-3-2

特徴がある世界の多民族の芸術に触れ、初歩的にその風格と地域文化との関係を理解する。

2-3-3

芸術と民族風習、審美眼との関連を理解し、よくある芸術符号を判別し、鑑賞する。自分の創作活動で用いる。

活動の提案

- ◇ 地域、故郷の祝日や行事などのイベントに参加し、他の地域や民族の伝統文化との相異点を見つけ、それらの独特な表現方法を学ぶ。
- ◇ 地図帳や地球儀、書籍、ビデオを使って、クラスメートと一緒に外国の芸術作品を鑑賞する。それに関わる国の地理、歴史、風習、社会風景を理解し、異なる民族、異なる風格の芸術に対する理解や尊重を増進する。
- ◇ 学生は特徴がある芸術マーク（例えば、京劇の隈取や服装；中国画の松、梅、竹、菊；また舞踊に関する孔雀、ガチョウなど、建築に関する龍、鳳凰など）に関して調査し、教師は学生と一緒に鑑賞し、論議する。或いは保護者や学外の専門家を招き、マークに関する芸術作品を創作する。

第三学段

3-3-1

中国の各民族芸術及び文化背景に関して探究し、それらの独特な表現方式を用い、多民族文化の価値に対する認識や尊重を増進する。

3-3-2

特徴がある外国の他民族の芸術作品を比較し、理解する。また、歴史文化との関連を探究する。

3-3-3

様々な芸術符号の文化的意味を知り、芸術の内在的な意味と文化機能に対する認識を高める。

活動の提案

- ◇ 一つの民族の芸術に関してグループにわけて調査し、この芸術と現地の建築、地理、服飾、方言との関連を考慮する。クラス全員は調査結果について論議し、舞踊や歌などで演劇してみる。
- ◇ 世界の様々な民族の芸術を鑑賞し、その文化背景や芸術の発展について探索する。教師も学生と一緒に参加する。
- ◇ グループやクラス全員が一緒に生活の芸術符号について、その象徴的な意味を論議する。例えば、白、赤の色は違う地域で異なる意味がある。以上の内容を簡単にメモし、芸術成長帳に記録する。

④ 芸術と科学

芸術と科学は人類の文明が発展する過程での2つの翼と言える。人類の歴史の中で、多くの科学的発明は芸術からインスピレーションを受けてきた。一方、芸術は当時の科学的発明から啓発や支持を受けてきた。芸術教育の中で、学生は芸術と科学の関連や比較を通して、想像力を高め、感性と理性との均衡を達成して身心の健康的な発達を遂げる。

第一学段

内容標準

1-4-1

芸術と関わる科学現象と簡単な技術を理解し、好奇心をもつ。

1-4-2

科学技術製品の中で溢れた芸術要素を初歩的に理解し、体験する。

1-4-3

芸術手段や科学技術手段との連携を知り、もっと優れた形式を創造する。

活動の提案

- ◇ 学生は花火や飾り提灯、アニメ、油絵、水墨画、陶器などについての感想、また各種の楽器で演奏した感想を話し合うことにより、制作材料や過程に関して興味を持つようになる。教師も現地の状況に応じて適切な内容を選ぶ。
- ◇ 生活をテーマとした芸術活動で、電気製品の造形美を見つける。
- ◇ 喉から出た声と拡声機から出た声との違い、自然の景色の色と映像の色との違いを比較する。映像媒体を使っているいろいろな変化を試す。

第二学段

2-4-1

科学技術の芸術に対する影響を理解する。

2-4-2

芸術想像や審美観は科学の発展を促進することを理解する。

2-4-3

芸術手段と科学手段との連携を試し、よく知っている科学内容に創造的表現をする。

活動の提案

- ◇ 紙の発明、映像技術、電子メディアに関する資料を収集し、芸術の変化との関連を説明してみる。科学技術は芸術に対する影響を理解する。
- ◇ 古代人や現代人の芸術の想像で科学への影響について論議する。

- ◇ 顕微鏡や虫めがねで動物の瞬間を観察し、学生の想像力を膨らませ、芸術創作を行う。

第三学段

3-4-1

現代科学の手段、多種の媒体の芸術方式や風格に対する影響を探索する。

3-4-2

芸術想像や審美観が科学の発展に対する価値を理解する。

3-4-3

芸術と科学手段の連携で芸術創作や表現を行う。

活動の提案

- ◇ 古代の青銅器彫塑、石彫塑、現代金属彫塑の風格、外観の相異を比較し、鑑賞する。現代の金属やガラスを主とする建築と古代の土、石などの建築との相異を比較する。電子技術が進んだ後の芸術方式や風格はどのような変化があるかについて探究する。
- ◇ ある科学家の芸術素養を理解し、これらの素養と科学貢献との関連を見つける。芸術の想像と審美眼は現代のファッションデザイン、装飾デザイン、広告などにどのような影響を与えたかについて調査する。
- ◇ 学生に広告デザイン、舞台背景などの活動を指導し、芸術手段と科学手段との連携を理解させる。

5 芸術課程標準の実施のための提案

芸術課程標準を実施するために、教育活動、評価、教育課程システム、教科書、課程資源について以下のように提案している。

(1) 教育活動の提案

芸術科目は教育改革の中で誕生した新しい科目であり、中国の本来ある音楽・美術科目の上で発展してきた総合的な科目とも言える。芸術科目を実施するに当たっては、学生の音楽、美術、舞踊、演劇などの基本的な芸術能力を伸ばす目的を達成するべきである。各学校は現地の教師の実力、教育条件、社会資源、民族の特徴などの状況によって教育の重点を決める。芸術教育は鮮明に人文的特色を反映すべきである。芸術科目は開放的で、教育活動の形式を多様化するための十分な空間を有する。

本科目は4つの芸術科目の総合を強調している。そして、各科目の特色を維持する上で、各芸術科目を簡単に重ねることを防ぐ特徴もある。つまり、芸術科目は各科目のつながりと互いの影響を強調している。授業形式は2つある。1つは「1科目を中心にして、他の科目を補助する」、もう1つは「多種の科目を総合する」ということである。教師は各自の素質と教育の要求に従って、適切な授業形式を選ぶ。

(2) 評価の提案

評価は芸術教育の1つの重要な段階と言える。評価を通して、学校と社会は芸術科目を実施する適用性、有効性及び教育価値を明らかにすることができる。教師は、芸術教育の計画と実現状況を把握した上で、教育を改善することに用いられる。学生は評価を通して、

早いうちに自身の能力やレベルを把握することができ、学習を促進する。保護者は評価を通して、子供の学習進捗と成績を把握した上で、子供の勉強を励めますことができる。

① 学生への評価

芸術科目の学生への評価は主要な原則が2つある。

◇ 全面的に発展する原則

芸術科目の評価は学生が全面的に発展する目的を果たせなければならない。すなわち、学生の芸術能力の発展を重視する一方、人文的素養を伸ばすことも考え入れるべきである。科目を設計する要求と目標に基づいて、具体的な教育内容を評価する。

◇ 個人差を重視する原則

学生の個人レベルは異なっているが、個人が成長した文化的背景、社会環境、経済的状況、言葉及び性別の差異もある。芸術科目の評価は個人の最初のレベルを考慮した上で、個人の特性や個人に属する環境も配慮すべきである。それによって、学生に対する公平な評価ができ、学生の小さな進歩でも励まされることになる。

芸術科目は学生への評価が実質評価を主な方法として用いる。

実質評価は芸術科目を評価する方法の一つである。実質評価は学生の学習結果を重視しているのではなく、探究の過程を重視している。この評価方法は教育活動と結びつき、学校とクラスと個人によって、客観的に学生の芸術能力と人文的素養などを評価する。芸術成長記録ファイルは実質評価によく用いる手段である。芸術成長記録ファイルは学生の全般的な成長を記録する。芸術成長記録ファイルは学生が自分の芸術学習の過程を考察と評価をするためのものである。

芸術成長記録ファイルは以下の内容を含んでいる。

- ◇ 作品を創作する過程の説明：学生が芸術学習の過程での努力度合を評価する。
- ◇ 学生の系列作品：学生が完成した作品、自己認可した作品あるいは成功した作品だけではなく、下書きや成功していない作品も成長記録ファイルに入れる。これによって学生の芸術学習の範囲を評価する。
- ◇ 学生の自己反省：学生が自分の作品について、特徴を説明し、作品を評価し、進歩しているところなどの内容を反省する。
- ◇ 他人の評価：教師、仲間、保護者などの評価を含めている。
- ◇ 今までまとめた資料及び予定として学習する資料。

② 教師への評価

芸術科目で教師への評価は主に、教師の熱心さ、学生への愛、授業態度と教育創意などを評価する。次は教師への評価を6部分に纏めて述べる。

第1部分：

- ◇ 芸術教育に熱心に取り込んでいるか。
- ◇ 常に学習し、探究心をもって、芸術教育を進歩させる努力をしているか。
- ◇ 芸術教育の構成と授業の設計がよくできているか。
- ◇ 独自の創意工夫があるか。

第2部分

- ◇ 学生が授業での参与意欲と行動の観察によって、学生の学習能力を適切に判断しているかどうか。例えば、学生の性別、文化背景、個性及び能力の差異を十分に

配慮して、多様な評価方法を用いる。

- ◇ 学生の芸術を学習する熱意を保つような評価をしているか。

第3部分

- ◇ 保護者や地域社会と提携し、社会資源を十分に利用しているか。

第4部分

- ◇ 芸術科目を他の科目と関連つけているか、他の科目の勉強の支援になっているか。

第5部分

- ◇ 授業単元に対して十分に準備しているか。
- ◇ 授業で使う各種の媒介を上手に操作できるか。

第6部分

- ◇ 授業の目標を十分理解しているか。
- ◇ 自分の授業に対して正しい評価をし、問題点を明確にし、教育のレベルが進歩するよう努力している。

(3) 学校への評価

第1部分

- ◇ 芸術教育は学校の管理層から支持をもらっているか。
- ◇ 芸術教育は校長、クラス担任及び他の科目の教師の協力を得ているか。
- ◇ 芸術教育はある程度の政策によって保障されているか。
- ◇ 芸術教育は学校の全般的な教育の中で一定の位置が与えられているか。

第2部分

- ◇ 学生全員に芸術を勉強あるいは芸術と触れ合うチャンスを与えているか。
- ◇ 学生たちは小中学校の教育を終えた後、芸術活動へ参加する能力や趣味があるか。

第3部分

- ◇ 教師が芸術教育に対する意見を尊重しているか。

(4) 教育課程システムへの評価

芸術教育の発展を促進するために、科目の実施状況や教科書の質または使用状況について持続的に調査し、研究する必要がある。世界各国の芸術教育システムを研究し、比較することを含め、教育実施の情報を収集し、芸術教育の質を向上させる。教育課程システムの評価は以下の内容を含めている。

- ◇ 授業の目標は現代社会が芸術的素質のある人材の必要性和調和性を反映しているか。
- ◇ 授業内容の組織（各単元の授業の内容、人文主題と知識技能の設計などを含めている）は合理性、持続性、完備性があるか。
- ◇ 授業の内容は創意性があるか、多元性と多様性を反映しているか、または、活発するか、生き生きしているか。
- ◇ 授業は学生の趣味や能力と適合しているか、個人差を考慮しているか。
- ◇ 授業の設計は地域性を考慮し、各地で実施することに十分な選択と発展空間を与えているか。
- ◇ 授業を実施する過程において、学生が学習する内容への評価は「芸術と生活」「芸術と情感」「芸術と文化」「芸術と科学」4つの目標と合わせているか。
これらの内容を評価するために、例えば、「アンケート調査」「先生と学生との交流」

「学生報告書」などの形で行う。

(5) 教科書を編集する提案

芸術教科書の編集は芸術科目の性質、価値、基本理念、科目の目標及び内容標準を表す必要がある。芸術科目の内容を設計するに当たり、音楽、美術、演劇、舞踊などの芸術能力の統合やつながりを考慮しなければならない。科目の4つの目標「芸術と生活」「芸術と情感」「芸術と文化」「芸術と科学」を中心として、「1科目を中心にして、他の科目を補助する」あるいは「多科目を総合する」の方式で、授業の設計を通して、学生の全般的な人文素養と芸術能力を高める。

① 教科書を編集する原則

教科書の編集は学生の心身の健康と学習心理を適切にするべきである。教科書の内容は学生の生活経験と繋げる必要がある。教科書編集の原則は次の4つにまとめられる。

◇ 開放性原則

教師が使う教科書は教師に多様な教育構想を提供しなければならない。同時に創造性教育の空間を提供し、教師が現地の科目資源を上手に利用することができるようにする必要もある。

芸術成長記録ファイルの設計は学生の学習意欲をひきおこし、多様な学習条件を備え、十分に自分の思想、情意と創意を発揮できるようにするべきである。

◇ 多学科統合の原則

教科書は総合の理念を反映する。音楽、美術、演劇、舞踊などの科目は相互関連、または統合させる。同時に芸術科目と非芸術科目とのつながりも考慮に入れる必要がある。

◇ 豊富な教育事例を提供する原則

◇ 多種の媒介材料を用意する原則

② 教科書内容の組み立て

教科書は冊ごとに学生の能力、年齢特徴、生活経験と文化背景によって編集する。各単元は人文的テーマと学科テーマを中心として、いくつかの関連性があるテーマを設計する。単元と単元の間、授業と授業の間に有機的な関係を結びつけるようにする。

③ 教科書の形式

教科書は先生が使う本と芸術成長記録ファイル及び各種の媒介材料（教材）などによって構成されている。芸術成長記録ファイルは以下の内容を含めている：個人履歴（姓名・趣味・写真など）、単元主題と合わせる学習資料、学習内容、学生が関与している内容（例えば、楽譜、ピクチャなどの学習資料及び「私の歌声」「私の創造」「私の評価」「私のメニュー」「私の学習道具と日記」などの具体的な内容）

(6) 課程資源の開発と利用

芸術教育の課程資源は学校資源、地域社会資源と家庭資源を含めている。各層の教育機関と芸術教師は農村と都市が特有な資源環境と人文環境によって、地域の状況を考慮して、多様な経路で、多様な形式で科目資源として開発と利用することを要求されている。

① 学校資源の開発と利用

芸術教育に利用できる学校資源は芸術の教師、ある程度の芸術能力を持っている教師、ある程度の芸術特長を持っている学生などが含まれる。その他、放課後の芸術活動や芸術クラブ及び図書館、学校の自然環境なども学校資源と言える。学校資源の開発と利用方法

は次の10の要点に整理している。

- ◇ 芸術教師の潜在能力を十分に発揮するように育成し訓練して、総合芸術教育の要求と合わせる。
- ◇ 学校内の芸術才能がある教師を発見し、芸術教育の教師として採用する。例えば、優秀な国語の教師は演劇の教師の担当にもなれるかもしれない。
- ◇ 一定の芸術特長を持っている学生を積極的に他の学生の芸術学習を手伝うようにさせる。
- ◇ 教師と学生の生活の中の芸術経験を活用し、芸術教育と統合する。
- ◇ 学生の芸術の実演意欲をひきだし、学生の持続的な学習意欲を強める。
- ◇ 図書館の文芸書籍、画集、ビデオ・映像資料、雑誌、新聞などを充実させ、教師と学生に便利な貸し出し制度などを制定する。
- ◇ 校内の文化娯楽施設を十分に利用し、これらの施設の芸術教育実践での役割を十分に果たす。
- ◇ 学校の緑化や教室と画廊の配置については、学生に芸術雰囲気を感じさせるようにする。
- ◇ 学校の文体娯楽活動やクラブ活動などによって、学生に自分の才能が発揮できるような環境を作る。
- ◇ 芸術教育の資料（典型的な教案、映像、教具、ピクチャーなど）を蓄積することによって、教育現場に多様な選択ができるようにする。

② 地域社会資源の開発と利用

芸術教育に利用できる地域社会資源は以下の内容を含めている：芸術教育ができる人材、社会文化芸術組織、地域の文化芸術施設、地域の芸術環境、地域の芸術活動、民族歌舞活動、農村の民俗活動など。地域社会資源の開発と利用は以下の5つの内容でまとめられる。

- ◇ 地域内の芸術教育人材と定期的に連絡をとり、講座や公演、お茶会などの形で学校の教育に参加させる。
- ◇ 学校は地域の芸術組織や機関と提携し、多様な形式で芸術活動を行う。
- ◇ 地域の芸術展覧会や地域の芸術活動に参加することによって、校内の教育と校外の教育と統合する。
- ◇ 地域の彫塑、建物、市民広場、緑化などの資源を通して、学校の授業の内容を充実させる。
- ◇ 少数民族の地域は伝統的な民族芸術を利用することや、農村で民俗活動を利用することなどもある。

③ 家庭資源の開発と利用

芸術教育に利用できる家庭資源とは、ある程度の芸術才能を持っている親と親族、文芸書籍と雑誌、映像資料、パソコン、芸術機材、家庭芸術活動などを含めている。家庭資源の開発と利用の方法は以下の5つがある。

- ◇ 一定の芸術特長を持っている親や親戚と連絡をとり、学校の芸術教育への協力を促す。
- ◇ 学生を家の環境の設計に参加させることによって、芸術の実践の能力をアップさせる。
- ◇ 保護者は学生が好きな文芸書籍、雑誌、映像資料などを買っておき、学生の芸術

視野を広げる。

- ◇ 学生が家庭内の資料を利用し、芸術活動を行う。
- ◇ 家庭内のカラオケ設備を利用し、家庭内で歌会、ダンス会を行い、芸術活動を楽しむ。

6 芸術課程標準と美術課程標準との相違

前章までに中国の芸術課程標準の主な内容について解説を行った。ここでは、美術教育に関わる美術課程標準との関連、相違を簡略に比較して芸術課程標準の位置付けをし、まとめとする。

	美術課程標準	芸術課程標準
課程目標	創造的な精神を奮い立たせ、美術の実践能力を発展させ、基本的な美術の素養を形成し、高尚な審美の情操を磨き、人格を高める。	芸術能力と人文的素養の融合、学生の人格的な発展を強調している。芸術学習が出来る学生を培う。
課程性質	単科性、技能性、徳育性、知育性、人間性。	総合性、人文性、創造性、愉悦性。
課程理念	①基本的な美術素養を形成する。②美術についての興味を喚起する。③広範な文化の中で美術を知る。④創造的精神や問題解決能力を育成する。⑤学生の発達のための評価を行う。	①芸術能力を形成する環境を重視し、芸術学習と学生の生活、情意、文化、科学認識と厳密に関連がある。②多種の芸術方式での総合課程。③学生の主体性、個性を重視する課程。④芸術課程の芸術性と面白みを重要視する。
課程分類	美術科の授業。	音楽、美術、視覚芸術、演劇、舞踊などの総合。
学習方式	個人或は集団の学習方式。	個性と差異を強調し、個性のある探究や学習方式。
評価目標	美術知識の把握；美術素養、審美観の形成；健全な人格の発展を目標としている。	学生の芸術能力と人文的素養の総合的な発展を目標としている。
評価依拠	学生が知識や技能を把握する程度。また、美術の学習能力、態度、情意、意欲など。	“質”的な評価、例えば、学生が芸術で生活を美化する能力、情意を表現する能力、多元文化意識、感性と理性との均衡など。
評価方式	教師評価と学生の自己評価、学生自らの評価をより重視するべき。(アンケートや学習ファイルの方式など)	進行中での評価、終結評価、教師評価と自己評価との総合(芸術成長記録ファイル)。

注：

- 1) 麻麗娟・福田隆真「中国における教育課程と美術教育課程の変遷について」山口大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 2005年第20号 p.79
- 2) 中国教育部基礎教育センター、芸術課程標準研究グループ 「芸術課程標準解説」北京師範大学出版社 2002年4月